

第1分科会 猿払村立浜鬼志別小学校

1 研究主題

自ら学び、基礎・基本を身につける子どもの育成
～わかる・できる を実感させる授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 児童の実態と課題から

本校の研究主題は、平成23年度まで3年次計画で「言葉で伝え合い、学び合える子の育成」とし、全学級での授業公開や研究授業を通して、仮説に迫るための研究を進めてきた。

その中で、浮かび上がった課題は以下である。

- ・基礎的・基本的な内容に対する知識・技能の理解の難しさ、習熟、定着不足
- ・課題を解決するために必要な、語彙力、思考力、考え方の道筋を作る技能の不足
- ・各教科学習に必要な学習姿勢、学習習慣の不十分さ、学習への苦手意識、学び合いの経験不足

それらをうけ、本校の研修の重点課題を、基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための学習指導、授業づくりとし、さらに主体的に学習へ向かう意欲づくりであるととした。

よって、研究主題を「自ら学び、基礎・基本を身につける子どもの育成」と設定し、「学び方を知り主体的に課題を解決する力」を推し進めるとともに、学校全体で基礎学力向上の取り組みを実践し、主題の具現化を図っていくものである。

(2) 主題のおさえ

研究主題にある「基礎・基本」とは、学習指導要領に示された各教科において最低限身につけたい「基礎的・基本的な内容」をさしている。児童の学力の実態から、つけたい力を段階的に明確に絞る必要がある。最も土台となる「読み・書き・計算」さらに絞って『音読、漢字、四則計算』を重点に据えながら、各学年、各教科の基礎的な学習内容についての知識、理解を重視する。特に学力テスト等の客観的な結果から明らかになった「正しく読み取る力」については深めるべき課題である。

3 全道へき地・複式教育連盟 第9次長期5か年研究推進計画との関連

【分野】

〈学習指導の深化・充実〉

地域に根ざした、主体的・創造的な学び合いにより「確かな学力」を育てる学習指導の創造

【課題】

〈課題7〉 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実

- (1) へき地・複式教育の特性を生かした指導方法
- (3) 学習効果を高める個別化、集団化などの指導方法

【本校の研究】

〈課題7〉(1) → 個や学級の習熟度に応じ、一人一人が安心して解決努力できる教材や学習課題の設定、教具の工夫、開発。

〈課題7〉(3) → ・全校で取り組む学習規律の確立と実践、改善。

- ・自力解決、集団解決ともに、主体的に学習を進めるための「学び方」の確立、実践の工夫。
- ・意欲が高まる、効果的な学び合い活動と児童の相互評価の活用。



授業づくりの工夫

- ☆**取り組み**～・研究授業【年2～3回】とそれに向かう他校を交えての模擬授業や基礎実験
- ・日常授業の改善のための授業交流週間による相互評価



★模擬授業で基礎実験

サーモテープの変化がわかりやすいのは、この位置ですかね～

協力校として隣の知来別小学校の先生方が全員参加してくれました！



★児童は先生 模擬授業！

☆成果と課題

○おのおのの授業力を高めるための具体的課題があぶりだされた。ていねいな日常授業実践の積み重ねがより必要である。

解決したい課題

- 「授業の基本」の確認が必要 ～板書の文字や色、机上の整理、学習環境としての教室のあり方、座席の工夫、授業規律のおさえ
- 学習の見通しを「見える形でわかりやすく」提示することが必要。
- 課題把握「つかむ」の効果的な指導が必要。
- ノートやワークシートの活用、板書とのリンクに工夫が必要。
- 間接指導を意識した、「自力解決（ひとりで・グループで）」の学び方の確立を。
- 理科による問題解決的な授業の有効性が確認された後の、他教科での模索。



他者との関わりと評価

☆学習の中での相互評価を重点に

本校児童の大きな課題に、「他者と関わりながら学習を進める力の不足」がある。学習に対する自信のなさ、友だちから非難されるこわさ、意見を伝え合い認め合う経験の不足があげられる。そこで「ペア、グループでの学び合い」の実践研究とともに、「評価の視点を明確にした相互評価」を授業に取り入れ、仲間とともに安心して課題を解決しようとする意欲を高めていくものである。

☆成果と課題

まだ始まったばかり。全学級で教科や発達段階に合わせた様々な工夫により、改善され効果を確かめ合って推進したい。



「いいねカード」を活用して仲間の作品から学ぶ。貼られると嬉しい！自分の作品づくりのヒントにも…

